

採血を受けられる患者さんへ

平成27年4月1日

○ 採血の必要性と危険性について

採血はあなたの病状を把握するために必要な医療行為です。血管（静脈）に針を刺し、血液を必要最低量採取し検査致します。

医療行為の中では比較的安全性の高い手技ですが、まれに合併症が起きることがあります。

医師は、採血によって得られる情報が、採血を行う危険性より重要であると判断した場合に、採血を実施しております。

必要性と危険性をご了承の上、採血を受けられるようお願い申し上げます。

○ 採血の合併症について

主な合併症は次の通りです。

○皮下血腫

穿刺時や、止血が不十分な場合に起こります。十分な圧迫止血（3～5分）をお願いします。

○アレルギー反応

アルコール消毒やラテックス（ゴム手袋）により、かゆみや発疹などのアレルギー症状が出現する場合があります。過去にアレルギー症状が出現した経験がある方はお申し出ください。

○神経損傷

穿刺時に手指のしびれやいつもとは違う強い痛みがあり、しばらく持続します。通常の採血行為では太い神経を損傷させる可能性は低く一時的な場合がほとんどです。しかし、このような症状が現れましたら、直ちに採血を中止致しますので、お申し出ください。

○血管迷走神経反射

緊張や不安、痛みで起こるとされ、急激に血圧が下がり、めまい（たちくらみ）、意識消失などを起こします。この場合は、ベッドに寝ていただくなどの対応をいたします。

○ 患者さんへのお願い

○ご本人確認

患者さんの誤認を防ぐためにご自身の氏名をおっしゃっていただいております。

○次に該当する方は、お申し出ください。

- ・採血時に気分が悪くなる方
- ・血液透析中の方
- ・乳房切除術を受けられた方
- ・アルコール消毒、ラテックス（ゴム手袋）にアレルギーのある方
- ・その他、不安な点があればなんでも結構ですとお申し出ください

最後に

安全・安心な医療の提供を行うため、当採血室では、国家資格である「臨床検査技師」が採血を実施しております。みなさんのご協力をお願い申し上げます。

慈恵医大葛飾医療センター中央検査部 採血室